

一般国道56号(四国横断自動車道)宿毛内海道路(宿毛和田～宿毛新港)に係る新規事業採択時評価

- ・南海トラフ地震発生時に住民の避難や緊急物資の輸送を支える「命の道」として機能する信頼性の高い道路ネットワークを形成
- ・都市部や空港からのアクセスが向上することで、観光振興や地域産業を支援
- ・高次救急医療機関への速達性・アクセス性の向上により、緊急搬送など医療活動を支援

1. 事業概要

・起終点：高知県宿毛市和田
～高知県宿毛市榑(図1、2)

・延長等：7.1km
(第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)

・全体事業費：約510億円

・計画交通量：約2,900台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約2,000台/日	約500台/日	約400台/日



2. 課題

①南海トラフ地震等に対する地域ネットワークの脆弱性

・宿毛市では、南海トラフ地震により広範囲で地盤沈下が発生し、中心市街地周辺で長期浸水被害が発生すると想定される。宿毛市役所へ向かう主要な幹線道路は国道56号に限定されており、道路啓開や救助・救出、長期浸水の解消に時間を要することが課題。(図3)

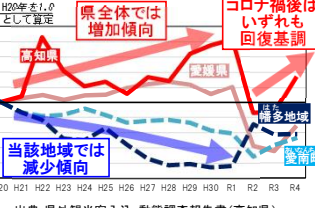
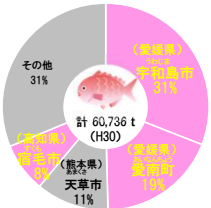
・宿毛新港IC付近は高台移転した宿毛市役所や宿毛新港などの防災拠点が集中しており、緊急輸送道路の機能の確保が課題。(図3)



②都市部との交流・地場産品の流通促進による地域の活性化

・当該地域は全国上位の養殖マダイの生産地であり、特に宿毛市・愛南町は、産地加工や地域ブランド戦略(愛南の真鯛、直七真鯛等)による高付加価値化に力を入れている。販路拡大に向けて、生産地や加工場から高知市方面・関西方面、便数が多く最終便も遅い松山空港まで、急カーブや縦断勾配など線形不良区間を通過するため、速達性などの輸送効率が課題。(図4、図5)

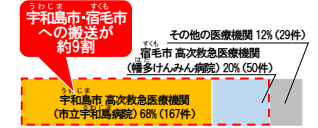
・コロナ禍前は、高知県、愛媛県全体の観光入込客数は増加傾向。一方、宿毛市が位置する幡多地域、及び愛南町は減少傾向。ただし、コロナ禍後はいずれも回復基調。四国西南地域は地域の観光資源を活かした周遊観光の促進に取り組んでおり、幡多地域・南予地域の広域周遊のための移動時間が課題。(図6)



③高次救急医療機関へのアクセス

・愛南町には高度救急医療などを行える救急医療機関がなく、重篤患者の救急搬送は隣接する宇和島市、宿毛市の高次救急医療機関に依存。(図7)

・当該地域唯一の緊急輸送道路である国道56号を利用しているが、宿毛和田IC～宿毛新港ICの並行区間には、事故危険区間が2箇所急カーブ箇所が1箇所あり、患者への負担が課題。



3. 整備効果(WISNET2050との対応)

効果1 信頼性の高いネットワークの確保・災害に強いまちづくりを支援【◎】

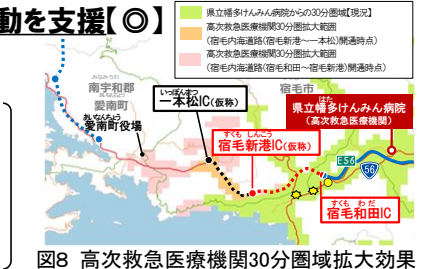
- ・浸水しない信頼性の高いネットワークの構築により、持続可能な地域生活圏を維持
- ・長期浸水で孤立する要救助者の救出および長期浸水解消に向けた排水作業のアクセス確保に寄与。
- ・高台移転した宿毛市役所と連携し、宿毛新港IC周辺の防災拠点を中心とする防災まちづくりに寄与。

効果2 観光振興や産業振興に寄与【◎】

- ・移動時間短縮が図られ、都市部との広域ネットワークの拡大により、円滑な物流網の構築や、高知県幡多地域の魅力を向上。

効果3 速達性・アクセス性の向上により医療活動を支援【◎】

- ・愛南町から高次救急医療機関までの搬送時間が短縮され、地域で生活が営める環境を維持。(図8)
- 愛南町役場から幡多けんみん病院までの搬送時間が短縮【現況】40分 → 【整備後】29分(約11分短縮)
- 愛南町の高次救急医療圏の30分圏域人口カバー率が増加【現況】約1,100人 → 【整備後】約6,400人(約5,300人増)
- 国道56号(宿毛市和田～宿毛市宿毛)のR<150mのカーブ区間減少【現況】1箇所(国道56号) → 【整備後】0箇所(宿毛内海道路)



■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)

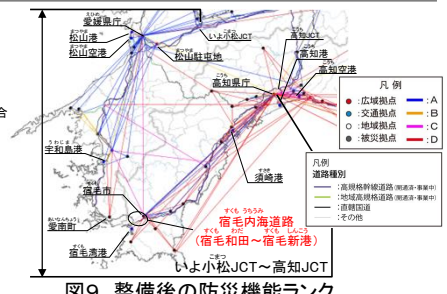
B/C	EIRR ^{*1}	総費用	総便益
(参考) 1.9(0.1) 2.3(0.2) [29%] ^{※3} 2.6(0.2) [19%] ^{※3}	8.2%(-4.0%)	34,641億円 ^{※2} (351億円 ^{※2})	67,364億円 ^{※2} (47億円 ^{※2})

注)費用便益分析結果は、いよ小松JCT～高知JCTを対象とした場合()書きの値は事業化区間を対象にした場合
※1: EIRR(経済効果)
※2: 基準年(令和5年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率:4%)
※3: 比較のために参考とすべき値として設定した社会的割引率

■道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度(防災機能ランク)		脆弱度弱体化の 変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
75 (2)	0.61 (C) (0.55 (C))	0.37 (C) (0.58 (C))	838.24 (7.56)	0.20 (0.05)	0.30 (0.00)	○

注)上段の値は、いよ小松JCT～高知JCTを対象とした場合、
下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果
※被災する地点の最寄りインターチェンジを拠点とし評価



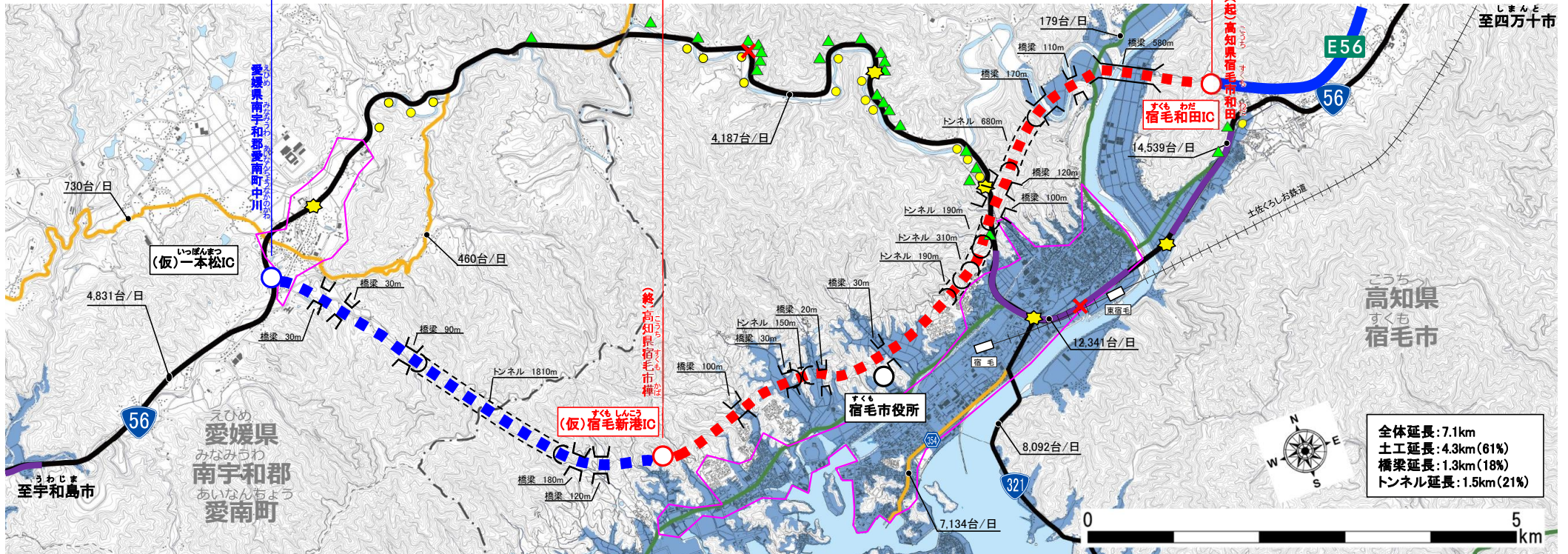
注)本事業は、「着工前重点準備事業」として実施

一般国道56号(四国横断自動車道)宿毛内海道路(宿毛和田～宿毛新港)に係る新規事業採択時評価

すくもうちうみ すくもしんこう いっばんまつ
宿毛内海道路(宿毛新港～一本松)

すくもうちうみ すくも わだ すくもしんこう
宿毛内海道路(宿毛和田～宿毛新港) 延長7.1km

なかむらすくも
中村宿毛道路



全体延長: 7.1km
土工延長: 4.3km (61%)
橋梁延長: 1.3km (18%)
トンネル延長: 1.5km (21%)



凡 例			
■■■■■	対象区間	×	通行止め箇所 (H28-R4)
■■■■■	事業中区間	▲	防災課題箇所
———	一般国道	●	平面線形の厳しい箇所
———	主要地方道	▲	縦断勾配の厳しい箇所
———	一般県道	■	市街地(集落)
———	高速道路 (開通済) (事業中)	○○○台/日	交通量 (R3全国道路・街路交通情勢調査)
———	橋梁構造	———	県境界線
———	トンネル構造	■	津波浸水想定区域
★	事故危険区間	■	津波浸水予測区間 (R56)

